

# 令和3年度学校評価

山梨大学教育学部附属中学校 学校評価委員会

## 1 学校評価の目的(第1回学校関係者評議員会・学校関係者評価委員会資料より)

- ① 各学校が,自らの教育活動その他の学校運営について,目指すべき目標を設定し,その達成状況や達成に向けた取組の適切さ等について評価することにより,学校として組織的・継続的な改善を図ること。
- ② 各学校が,自己評価及び保護者など学校関係者等による評価の実施とその結果の公表や説明により,適切に説明責任を果たすとともに,保護者,地域住民等から理解と参画を得て,学校・家庭・地域の連携協力による学校づくりを進めること。
- ③ 各学校の設置者等が,学校評価の結果に応じて,学校に対する支援や条件整備等の改善措置を講じることにより,一定水準の教育の質を保証し,その向上を図ること。

## 2 学校評価の方法

上記目的の①,②を受けて,本校としては次の考えに基づいて評価を行った。

### 【自己評価】

全教職員による自己評価は,後述する**9領域11項目**について,4段階による評価(A:できている・B:概ねできている・C:あまりできていない・D:できていない)を行う。

### 【保護者アンケート】

学校の自己評価項目を基に,その内容をより具体化した**6領域13項目**について,全保護者を対象とした,5段階評価によるアンケート調査(①:当てはまる・②:やや当てはまる・③:あまり当てはまらない・④:当てはまらない・⑤:分からない(評価できない))を実施した。

### 【学校関係者評価】

昨年度同様,学校評議員会のメンバーに学校関係者評価委員を兼任していただくようにした。本校の様子をより近くで見えていただいている保護者代表として,PTA会長と第3学年のPTA副会長に加わっていただくことが望ましいと考えるからである。

学校関係者評価は,学校における教育活動の観察や意見交換等を通じて,自己評価の結果や方法について評価することを基本として行った。

## 3 評価項目

これまでと同様に以下の12項目について評価した。

- |       |        |       |              |
|-------|--------|-------|--------------|
| ○教科教育 | ○道徳教育  | ○SELF | ○キャリア教育・特別活動 |
| ○生徒指導 | ○防災・防犯 | ○交通安全 | ○特別支援教育      |
| ○教育相談 | ○組織運営  | ○学校評価 | ○情報化推進       |

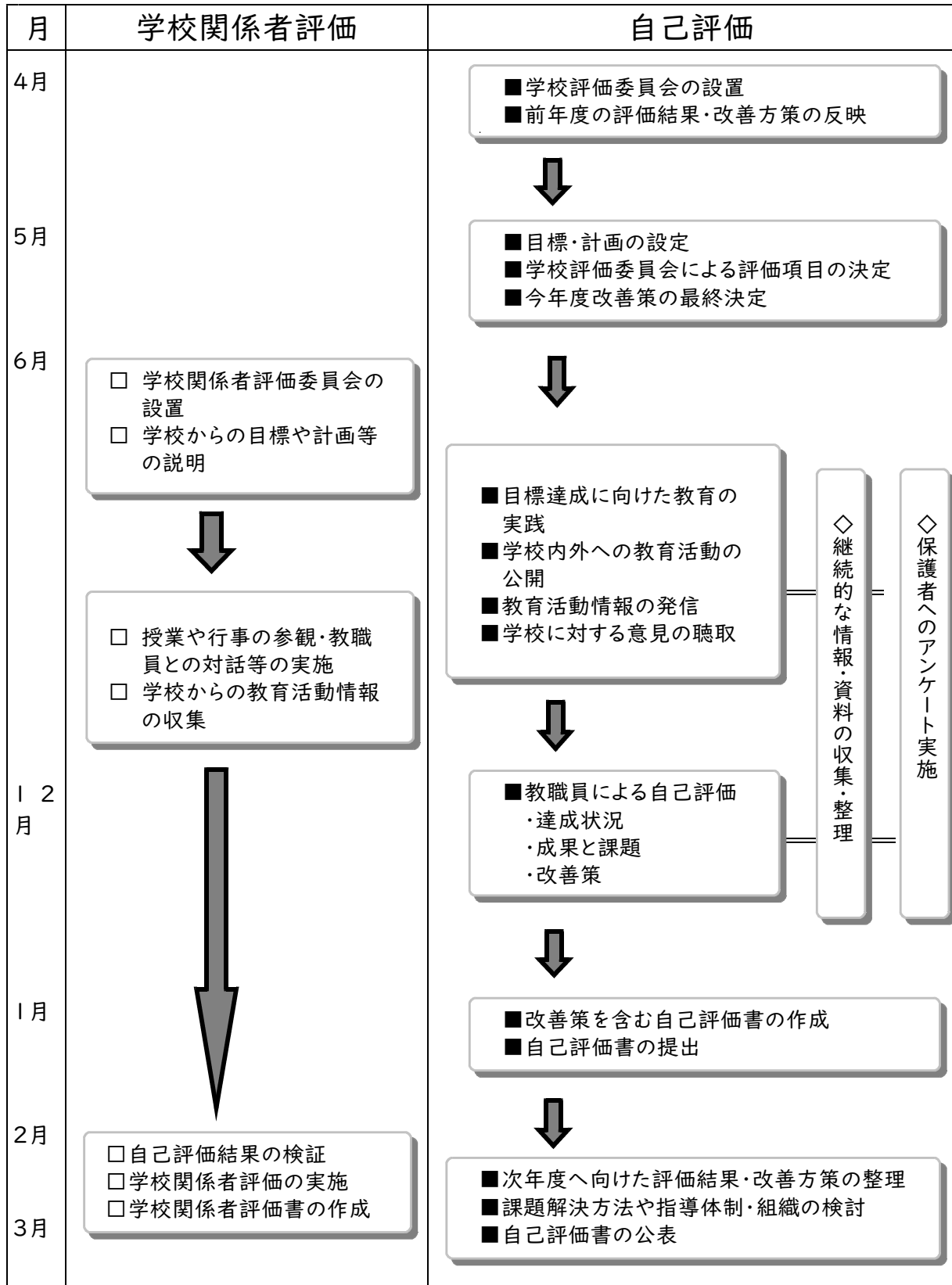
\*学校評価に関しては,保護者アンケートでは対象にせず,職員に評価の仕方の妥当性のみ調査した。

## 4 評価目標・改善策

令和3年度の評価目標・改善策は,令和2年度の学校評価の結果を参考に,拡大学校評価委員会で検討し,作成した。詳細は,《資料1》のとおりである。

# 5 年間計画

## (1) 年間スケジュール



## (2) 学校評価委員会の取組

### <取組経過>

- 第1回学校評価委員会(3月31日 運営委員会)
  - ・学校評価の目的と方法の確認
  - ・前年度の評価結果と改善方策の確認
  - ・評価項目と評価指標の原案作成
  - ・目標と年間計画の決定
- 第1回・第3回職員会議で全職員へ(4月1日・5日)
- 第2回学校評価委員会(4月14日 第4回職員会議)
  - ・本年度の具体的な対応・取り組みの検討
- 第1回拡大学校評価委員会(4月15日～5月7日)
  - ・各評価項目担当者が集まり評価指標と改善策の最終決定
- 第5回職員会議で全職員へ(5月19日)
- 6月～12月
  - ・継続的な情報・資料の収集・整理
  - ・全方位的な点検・評価と日常的な点検
- 第3回学校評価委員会(8月26日 第8回職員会議)
  - ・自己評価の実施に向けた自己評価書の様式・記述内容の検討
  - ・自己評価調書(中間報告)作成
- 第3回学校評価委員会(11月10日・17日・24日 企画委員会)
  - ・自己評価調書の記述内容確認
  - ・保護者アンケートの内容決定
- 11月～12月
  - ・保護者アンケートの実施と集計  
(11月30日「12月6日までにGoogleフォームで回答」)
  - ・自己評価調書の配付と集計  
(12月20日「1月5日までにGoogleフォームで回答」)
- 第4回学校評価委員会(1月20日 企画委員会)
  - ・自己評価調書と自己評価書の完成に向けた日程確認
- 第13回職員会議にて全職員で確認(2月16日)
- 第2回拡大学校評価委員会(2月28日～3月11日)
  - ・自己評価調書の内容検討
  - ・次年度改善方策原案の検討
- 第15回職員会議にて次年度改善方策原案を全職員で最終確認(3月15日)
- 第3回拡大学校評価委員会(3月16日～3月25日)
  - ・次年度改善方策の主な取組計画原案の作成

## (3) 学校関係者評価委員会の取組

- 第1回学校関係者評価委員会(6月2日)
  - ・学校評価・学校関係者評価の概要説明
  - ・今年度の評価指標・目標・改善策と評価委員会の活動予定の確認
  - ・学校関係者評価委員会評価書(外部評価書)の説明
  - ・質疑応答
- 第2回学校関係者評価委員会(2月28日)
  - ・自己評価及び保護者アンケートの結果説明
  - ・学校関係者評価委員会評価書(外部評価書)の作成
  - ・次年度の改善に向けた助言

## 6 学校評価結果のまとめ

【自己評価】…《資料1》参照

《資料1》の令和3年度学校評価(自己評価)は、本年度改善策の取組状況に対して教職員が自己評価をしたものである。改善策の設定にあたっては、まず、昨年取組で課題となった点を抽出し、次に、その課題を改善するために設定した。今年度も新型コロナウイルス感染症防止対策を講じた上での教育活動を行わなければならなかったり、8月下旬から9月上旬及び1月下旬から2月中にかけて臨時休業としオンライン授業を実施したりして、年間行事予定を再三再四見直し、例年通りの教育活動ができなかったということが多々あった。そんな制約の多い中でも、ほとんどの改善策において、■がついている(改善策に取り組んだことを意味する)ということは、大切な点である。しかし、評価(数値)が有意に下がった(今年度の全項目の平均3.31、昨年度は3.45であった)点については、丁寧に振り返り、更なる改善策を見出していきたいと考えている。

本年度から、自己評価の精度をより一層向上させるため、1つ1つの改善策(合計33)に対して、できていたかどうかを検討し、自己評価の評価値を出すという方法に改めた(昨年までは総合評価の箇所のみ評価値を出すという方法だった)。そのため、一概に比較できない面もあるが、本年度の自己評価の結果を、昨年度のものと比較すると、全体的には評価が-0.14ポイント下がった結果(3.45→3.31)であった。

改善策毎に見ていくと、「6 防災・防犯の危機管理」が2.7、「9 組織運営の効果的な組織運営」が2.8となっており、「概ねできている」とする評価値3を切っている。危機管理については、「安全点検のデジタル化を図る」という目標を掲げたにも関わらず、実行されていなかったためと考えることができるので、来年度は実行するよう防災担当に働きかける必要がある。組織運営については、特定の分掌に業務が偏っていることが大きな課題となっている。GIGAスクール構想の本格実施やオンライン授業の実施のため、情報部の職員に大きな負荷がかかっている(特に、情報部の職員は、研究部も兼ねているため、業務量が過多となっている)。また、附属中学校入試における検査問題づくりで感染症対策のため2種類を作成しなければならない状況があり、国語科・数学科の職員にとって大きな負担となっている。校務分掌を平準化するのは難しいが、できる限り特定の職員にのみ負担がかかるような校務分掌は避け、組織運営をしていきたい。

また、「情報共有」に関する改善策(教育相談・組織運営)の評価値がそれぞれ3.0(教育相談)、3.2(組織運営)となっており、高い数値とは言えない状況にある。これらは新型コロナウイルス感染症対策のため、職員が一同に介する機会が激減したことが要因と考えられる。しかし、コロナ禍前に戻すのではなく、ICT機器を活用しながら職員間のコミュニケーションを確保しつつも、ICTばかりではなく、重要な内容に関しては直接話をするというような情報共有のあり方を構築する必要がある。

職員の自己評価と保護者アンケートをクロス集計で見ると、両者ともに「交通指導」に関する項目が高くなっている(自己評価3.6、保護者3.6)。本校の学区は広域であり、自転車通学の生徒も多いため、日頃から職員による下校指導や、生徒自身(交通委員)による点検や呼びかけが伝統的に行われており、それがこのような高評価の要因であると考えられる。同様に、両者ともに「ICTの活用」に関する項目も高くなっている(自己評価3.5、保護者3.6)。ICTを活用した教育実践について、教員の取組姿勢が保護者にしっかり伝わっている現れと言える。一方で、学習に関して、教員自身は改善策の「1 授業改善」が3.6と高評価なのに対し、保護者アンケート「1 わかる授業」では、3.2となっており、よりより授業を創ろうと工夫する教員の取組姿勢が、保護者に上手く伝わっていないことが読み取れる。今後は、個別最適な学び(個に応じた指導)も含め、教員による授業の工夫の様子を各種便りを使って発信していく必要がある。

【保護者アンケート】 《資料2》参照

《資料2》令和3年度のアンケート結果

本年度の保護者アンケート結果を、昨年度のものと比較（一部の項目で今年度見直しを行ったため比較ができない箇所あり）すると、全体平均は評価が-0.08ポイント下がった結果（全体平均は3.47→3.39）であった。コロナ禍の影響で、様々な教育活動が制限された影響と考えることができる。

有意差検定をしたところ、「番号2（道徳）」・「番号3（SELF）」・「番号7（生徒指導）」・「番号8（安全管理）」が昨年と比べ「有意に低い」ことが明らかとなったため、現2・3年生の昨年度の保護者アンケートについて、経年変化分析を行ったが、有意差が見られなかった。考えられる要因として、令和2年度の3年生（現高校1年生）の該当箇所に関する保護者アンケートの得点が高かったこと、または、令和3年度の1年生の該当箇所に関する保護者アンケートの得点が低かったことがあげられる。実際に「番号3」については、今年度の1年生が「3.57ポイント」に対し、昨年度の3年生が「3.85ポイント」となっており、その差が「0.28ポイント」となっている。また、「番号7」については、今年度の1年生が「2.96ポイント」に対し、昨年度の3年生が「3.41ポイント」となっており、その差が「0.45ポイント」となっている。「番号2」については、アンケートにおいて「当てはまる」と回答した割合が今年度の1年生が「65.4%」に対し、昨年度の3年生が「75.0%」となっており、その差が「9.6%」となっている。「番号8」については、今年度の1年生が「2.95ポイント」に対し、昨年度の3年生が「3.29ポイント」となっており、その差が「0.34ポイント」となっている。さらに、「番号8」については、避難訓練の実施時期（保護者アンケート回答後に後期避難訓練を実施）も要因であり、防災に関する取組について、特に1年生の保護者への周知が不足していたことが考えられる。

一方で、「番号3（SELF）」・「番号9（安全管理）」・「番号12・13（情報化推進）」については、当てはまる(①)と回答した保護者の割合が、70%を越え、評価が高めの項目となっている。来年度に向けて、今回のアンケートで当てはまる(①)と回答した保護者の割合が50%付近の項目「番号1（学習）」「番号4（キャリア教育）」「番号7（生徒指導）」「番号8（安全管理）」について、力点を置き（保護者に対する取組の周知も含めて）、教育活動を展開したい。

【学校関係者評価】 《資料3》参照→本評議員会にて話し合われた内容を記載

## 7 評価結果の公表

目標・改善策、自己評価一覧、保護者アンケート結果については、設置者に報告するとともに、次年度のPTA常任委員会及びPTA総会で保護者にも公表する。また、目標・改善策についてはホームページにも掲載する。